

2016 年度事業報告書

2017 年 6 月

特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ

＜2016 年度の活動＞

16 年間の活動を通して、当法人はミッションとしている「さまざまな人たちとともに生きる社会」の実現に向けて多彩な試みを行ってきた。28 年度は、「重度の障害のある人」を核としながら、事業を展開するといった手法が、その理念を実現する方法として確信を持つことができた年でもあった。

アルス・ノヴァの利用者は、障害支援区分 5, 6 といった最重度の人たちから、中度、軽度の知的障害、発達障害、精神障害の人たちまでを、多機能事業所であるアルス・ノヴァでサービス提供を行っている。そうした実績とともに、28 年度に行った、「雑多な音楽の祭典～スタ☆タン」と「表現未満、実験室」は、障害のある人と障害ではない人たちが場や事業を共有していくことが可能であり、重度の障害のある人だからこそできる、街にたいするインパクトがあることが実証できた。特に「表現未満、実験室」を浜松市の駅前でを行い、75 の講演会、ワークショップを行ったが、36 日間で延 2400 名の来場者があったことは、障害のある人が、[街＝中心街]に存在することの意義が見いだされたといえる。これは、当法人の今後の展開に大きな示唆を示すものとなった。

活動の基盤となる障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァでは、浜松市において放課後等デイサービス事業所の増加に伴い、児童の利用者の減少が顕著であった。この傾向はしばらく続くと思われる。大人の利用者は微増しており、生活介護対象者の増加が今後も見込まれる。就労継続支援 B 型利用者による「のヴァてれび」では、毎週金曜日に YouTube(動画サイト)に「週刊あるす・のヴァ」がアップロードされている。2 年目となるのヴァてれびは、障害のある人(中度や軽度の知的障害、精神障害)の方々の就労の形としてユニークであるが、周知に苦心している。

東京オリンピック・パラリンピックの影響によって、特に障害のある人の作品づくりに注目が集まっている。全国でも展覧会、公募展が盛んにおこなわれている。アルス・ノヴァの利用者である、高橋舞氏の「ガムテープシリーズ」、尾形和記氏の「オガ台車」はそうした展覧会に招聘される機会が多くなっている。しかしレッツでは、作品よりも、むしろ、場や彼らの営みを「見せる、体験する」ことによって、障害を知る機会をつくり、さらにそこから新しい関係性や関わった人たちの創造力が生まれることを起こしていく事業(ソーシャルインクルージョン事業)に注力している。

今年度より事業化した「タイムトラベル 100 時間ツアー」は、アルス・ノヴァやのヴァ公民館に長時間滞在し、利用者やスタッフと触れ合うといった趣向の観光ツアーで、今年度 7 回実施した。有料で行うことで、アルス・ノヴァの利用者が「存在するだけでシゴトになる」メニューでもある。ユニークなプログラムとして反響もあり、次年度以降は、ネットワークを広げ行っていく。

アルス・ノヴァのある入野町では、のヴァ公民館の運営の他に、地元を取材した「入野コレクション」、フリーマーケット、回覧板での情報配信など、認知度向上に努めている。平成 26 年度より月 1 回のペースで行われているてつがくカフェ、「かたりのヴァ」のほか、他団体と連携して行う「出張かたりのヴァ」や代表の久保田翠が進行役の「ミドのヴァ」(月 1 回)も始まり、ともに考える場を提供している。こうした、地元ベースの地道な活動を続けていて思うのは、障害のある人たちだけではなく、「自分たちとは違う属性にいる人たち」への偏見や差別意識が根深くあることである。レッツの活動の特質として、一般的には決してわかりやすい活動ではないことを自覚しながらも、こうした努力をあきらめず続けていきたいと思っている。

(久保田)

<障害者福祉支援法に基づく障害福祉サービス事業>

■利用状況

【生活介護(定員 10 名)／自立訓練(定員 6 名)／就労継続支援 B 型(定員 10 名)／日中一時支援】

28 年 7 月より就労移行支援を廃止し、このサービスを利用していた利用者については就労継続支援 B 型や一般就労に移行した。契約者のうち実利用者数は生活介護 16 名、自立訓練 5 名、就労移行支援 3 名、就労継続支援 B 型 12 名、日中一時支援 10 名から始まり、年度終わりには、生活介護 17 名、自立訓練 1 名、就労継続支援 B 型 7 名、日中一時支援 10 名であった。一日平均利用数は、生活介護 8.3 名、自立訓練 0.9 名、就労継続支援 B 型 5.3 名。土曜日の日中一時支援の利用者の増加が顕著で、利用をお断りすることもあった。サービス全体の年間延べ利用者数は 4587 名と、前年度より 232 名減少した。

■事業運営の状況

28 年 7 月から就労移行支援を廃止したことにより、より多くの人員を生活介護に配置でき、手厚い支援に支払われる加算を受けることができるようになった。一方、昨年度、3 名の方々が就労へと結びついた。(1 名一般企業、2 名就労継続支援 A 型事業所)

■主な活動

①対外活動

公民館では、昨年度に引き続き「モーニングコーヒー大ちゃん」や「ムラキングの妄想と空想カフェ」などが定期的に開催されたほか、新たな企画として、生活介護利用の女子 2 名によるメイドカフェ「ParCafe」を 2 度開催した。お世話されているようでお世話している新感覚メイドカフェは目の前でパフェの盛り付けを行うなどのパフォーマンスもあり、なかなか盛況だった。そのほか、利用者が不定期に更新するブログ(ミナノモヒカン書道 <http://minamohikan.hamazo.tv/>、ムラキングのたまに名言 <http://murakingmeigen.hamazo.tv/>)も、閲覧数は少ないものの固定客がついているようだ。

その他は以下の通り。(表現未満、実験室の活動は除く)

- ・10 月 遠州横須賀ちっちゃな文化展「横須賀街道膝栗毛 ～横須賀街道をウロウロする～」を観光のスピノフ企画として実施
- ・7 月 ポコラート全国公募展 06 のメインポスターに高橋舞さんのガムテープ作品が採用
- ・3 月 はじまりの美術館「ロックとアートの蜜月な日々」に尾形和記さんの「オガ台車」とワークショップ実施

②表現

施設 2F フロアでは、日頃から音楽を行っている。主に利用者の尾形さん川瀬さんが中心となりスタッフの呼びかけが無くとも自主的に活動がされており、スタッフは本人の熱意に沿う形で共に音楽を楽しんでいる。電子機材が豊富にあり、大音量で音を楽しむ事が多い。また、機材同士を繋ぎ独自のサウンドを楽しむ姿はいつも驚くばかりである。そんな様子から発展した爆音ワークショップ「不思議の国とアルス」では、今年度もドラマーの梶原徹也さんに隔月で来所していただき、共に音楽(共に爆音)を楽しんでいる。また、「爆単」というイベントを立ち上げ、主に詩人ムラキングを中心にパフォーマンスを行い、外部アーティスト(とうこさん、静大生)も招いてイベントを行った。イベント収益がムラキングさん本人の収益に繋げるようにする事を課題としている。

アーツカウンスル東京主催の TURN プロジェクトでは、ダンサーの森山開治さんが延べ 4 日ほどアルス・ノヴァに滞在し、作品を制作した。非常にいい交流が生まれた。

10 月に開催されたオーディション型音楽イベント「スタ☆タン!!」では、アルス・ノヴァの大人の利用者からも 10 組がエントリーし、そのうち 7 組本選へ出場。本番前には緊張感あふれる練習をする姿がみられた。

また、ふだんから行っている音楽活動は 1 月にオープンした「表現未満、実験室」に設けられた「スタジオアルス」で変わらず展開され、訪れた人たちは遠巻きに鑑賞したり、ともに楽器を手に取り参加するなど思い思いに音楽を楽しんだ。

また、公民館で開かれている月1回の「レッツアート」(講師・高木淑子さん)や Art in Community(講師・ホシノマサルさん)、月2回の「銅版画講座」(講師・山下淳子さん)等の講座やワークショップにも、毎回数人の希望者が参加しており、多様な表現の場となっている。

7 月には東京オリンピック・パラリンピックの文化事業「TURN」の企画のひとつとして、ダンサーの森山開次さんがアルス・ノヴァを訪問。2日目にのび公民館で利用者とともに過ごすダンスの時間を設けたところ、濃密な時間となった。その様子は3月のTURN 展にて映像作品として発表された。

③地域とのかかわり

地域の方がのび公民館でのフリーマーケットを覗いて下さることが増えてきた。と同時に近所の方が公民館で鉢植えを小規模に販売するようになり、それがきっかけで立ち寄ってくださった方もあった。昨年に引き続き、近所の方から時折シールの寄付をいただいた。回覧板にアルス・ノヴァの利用者の紹介やスタッフの紹介なども掲載しており、見て下さっている方が少なくないようだ。

④健康

毎週2回のバイタルチェックのほか、時々散歩に出かけるようにしている。また、昨年にひきつづき浜松市の歯科検診の往診を依頼し、主に生活介護利用者に対して指導を受けた。

<生活介護>

観光事業や表現未満、実験実事業などを通して、利用者が普段と変わらない姿で訪問者との交流を行う事ができた。「表現未満、実験室」では来場者やゲストスピーカーが利用者と共に街への散策に出掛けたり音楽を楽しむ等、互いに向き合う場を設ける事ができた。また、スタッフと共にスペイン料理を楽しむ等、普段以上に屋外での活動を行う事ができた。

利用者個人の活動に沿ってスタッフが寄り添う支援ができた一方、以前行われていた利用者全員での屋外へのお出掛けができておらず保護者より再開する事はないのか?と要望が有った。29 年度はスタッフ主催のお出掛けイベントや調理イベントを行う等、積極的に利用者全体での活動を行う事にしている。

健康面では利用者全員が安定して通所しており、癲癇等の発作やパニック、他害自傷は以前に比べ少なくなっている。注意深く見守りが必要な場合も依然有るもののスタッフ間の連絡を強めた事から問題を未然に防ぐ事が増えている。

(佐藤)



＜自立訓練＞

主に3名の利用者で構成されていた自立訓練であったが、利用の減少や体調悪化による入院により、2017 年に入るところからほぼ1名の利用となっている。毎日小説や絵、音楽を創作することで安定して通えるようになっている。専属職員は1名だが、小説はスタッフ A、絵はスタッフ B、音楽はスタッフ B というように、スタッフの得意分野に合わせて話し合ったり、共に製作したりしており、スタッフも楽しんでいる。

(夏目)

＜就労継続支援 B 型＞

アルス・ノヴァの就労 B では、サービス利用を希望される方の要望や状況などが多様であるため、就労 B を「ワーク」「バラエティ」「エクササイズ」の 3 つに分け、本人や家族、相談支援員の話などを踏まえたうえで利用者の方を配置している。

「ワーク」は、のびあてれびを中心に“働く”時給制のメニュー。「バラエティ」は、その人自身の特性や好きなことを仕事としたメニューで、現在、詩人ムラキングとして活動する村木大峰さんがいる。「エクササイズ」は、“働く”ことや工賃を稼ぐことよりも、本人が安心して自分の特性を発揮できる居場所としての利用。半分は簡単な作業をしながら、もう半分はそれぞれが好きなことをして過ごしています。また、本人の要望や状況により、ワークやバラエティへの配置転換を行っている。

●仕事

昨年度はのびあてれびの外注仕事が 4 件あり、のびあてれびが担当した。※詳しくは「のびあてれび」の報告参照。

●就職・移動

昨年度、3 名の方の就職・移動があった。一人目は、浜松に本社があり全国に支店を持つ建設会社へ昨年 6 月に障がい者雇用として就職。就職前に面接練習や各種相談、就職後に定着支援を半年間行った。現在も継続して勤務している。二人目は、市内にある作業所の就労移行サービスへ、昨年 11 月に移動。アルス・ノヴァ開設当初からの利用者で、利用当初は体調が不安定で人間関係がうまくいかずトラブルが多い方だったが、病院の入退院を繰り返しながら、自伝本の制作や販売を中心に様々な経験をし、次のステップへとアルス・ノヴァを旅立って行った。三人目は、市内にある就労継続支援 A 型作業所へ 29 年1月に移った。これまで就職目前で大きく体調を崩し就職を逃すことが 2 回あったなか、少しずつ体調が安定し仕事に対する意欲も出てきて無事に移動となった。

●課題

昨年度後半から就労 B への利用を検討されて見学に来られる方が増え、月に 1～3 人の見学がある。他の作業所に通えなくなり好きなことをして過ごしたいという方や退院したばかりで体調を安定させたいという方から、のびあてれびに興味があり工賃も稼ぎたいという方まで、様々な要望や状況の方がいる。しかし、昨年度は見学者のうち本利用となったのが 1 名のみであった。関心を持たれて見学に来られた方が安心して利用できるよう、広報や受け入れ体制、仕事内容などの整備が今後の課題となっている。

(水越)

●のびあてれび

「週刊あるす・のびあ」の継続的な発信、外部委託業務におけるクライアントの意向を汲み取った映像制作などにより、のびあてれびの認知が広まった一年であった。他方で、28 年 6 月にのびあてれびの業務を担う「クルー」(就労継続支援B型利用者)のメンバー

名が一般就労して以降、人員不足が問題となった。次年度は、募集チラシなど広報ツールを整え、引き続きクルー増員に向けて努力したい。また、今年度準備期間として取材を数件行ったものの公開までいたらなかった、市内の福祉施設を紹介する「どいいら障害」や、市内でユニークな活動を行う個人・団体に取材することで創造都市浜松の魅力を発信する「Platform of Diversity」などの番組を充実させていくことで、のヴァてれびの「インクルーシブメディア」としての側面を強化していきたい。

平成 28 年度、開始から二年目を迎えた「のヴァてれび」は、主に以下の活動を行った。

【アルス・ノヴァの発信事業として、「週刊あるす・のヴァ(旧週刊のヴァてれび)」の YouTube 配信】

「週刊あるす・のヴァ」は、福祉施設アルス・ノヴァ内で日々起こる劇的な出来事を外部に発信する映像番組であり、毎週金曜夜に動画配信サービス YouTube 上に公開されている。28 年度末までに、事業開始時から通算して 77 本の番組が公開され、本年度の延べ再生回数は一万回を越えた。施設関係者や保護者だけでなく、「観光」事業や、外部でのイベントで出会った遠方の方々などが、アルス・ノヴァの日常に触れるために続けて視聴くださっている現状である。

【外部委託業務】

外部からの委託や助成を受け、次の業務を行った。

- ◆浜松まちづくり公社から助成を受け実施した、「入野コレクション」では、浜松市入野地区で活動する人取材した4本のインタビュー動画、のヴァ公民館のプロモーションビデオ、そして週刊あるす・のヴァの総集編、以上6本の動画を制作した。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLa6LtlgHqbHo2zOOMCfKMEl9gyVHeC54I>

- ◆「スマイルフェスタはままつ」司会(クライアント=浜松市障害保健福祉課)

- ◆ショートムービー「親愛なる、お父さんへ」(クライアント=浜松市役所中区長寿保険課・徘徊高齢者早期発見事業)

<https://youtu.be/s5-Xn0TzxRI>

- ◆「文化財で JAZZ を楽しむ! 国指定重要文化財中村家住宅編」プロモーションビデオ(クライアント=文知楽・文化を知楽しむ実行委員会)

<https://youtu.be/9Lwy0ZNIsc>

- ◆天竜ワークキャンパス紹介映像(クライアント=天竜厚生会)

「はまきたフォーラム」にて上映

- ◆聖隷クリストファー大学授業紹介映像(クライアント=聖隷クリストファー大学)

近日公開予定



ドラマーの梶原さんを迎えて行われる「不思議の国とアルス」

<児童福祉法に基づく障害児通所支援事業>

■利用状況

【放課後等デイサービス(定員 10 名)】

契約者のうち実利用者数は 27 名(日中一時支援 11 名)からスタートし、年度末には 20 名(日中一時 8 名)と大幅に減少した。日中一時支援を除く平均利用人数は 8 名、年間のべ利用者数は 2301 人と、昨年度より 127 名減少。依然として浜松市内の放課後等デイサービス事業所は増加しており、利用者の数は年々減少している。多くは特別支援学校の中学部・高等部の生徒で、小学部の児童の割合は少ない。全体を通して重度の知的障害児が減り、発達障害の児童が増えた。そのため、それぞれのこだわりに対して熱心に取り組む子もいれば、皆で交わり遊ぶ子もいた。

一年を通して、大きな怪我や事故も無く、日々過ごすことができた。

■事業運営の状況

事業開始以来の職員がサービス管理責任者研修を受け、法人全体で児童発達責任者として勤めることが出来る者が3名に増えた。ただ、27 年度の報酬改定以降、児童指導員や保育士などの加算が厚くなっている流れに対して、アルス・ノヴァでは児童指導員の資格に適合する者が常勤職員では不在となっている。平成 30 年以降はこの流れがさらに加速し、資格者以外の勤務ができなくなるため、人員配置の変更を余儀なくされそうだ。

■主な活動

①遊び

昨年に引き続き、シャボン玉、工作、DVD 鑑賞、絵の具遊び、折り紙と、楽しく遊ぶ姿が見られた。男子の間では、ダンボール工作が大ヒットし、武器や家を職員と一緒に作り、そこから戦いごっこや基地ごっこ等、新しい遊びが生まれた。女子の間では、シャボン玉がブームになり、シャボン玉を吹くための新しい道具を増やしたところ、周りを巻き込んで皆で楽しむ姿が見られた。また、いつ始まるか分からない、かくれんぼ・鬼ごっこや壁・床に絵や文字を思い思いに書き殴る事も、いつの間にか人が集り、皆で夢中になって遊ぶ事が出来た。

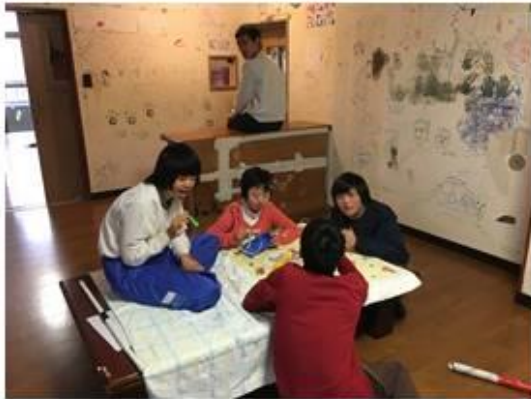
②外出

近所の公園はもちろんの事、豊橋総合動植物公園、浜名湖 SA、湖西連峰、ちくわとえびせんの共和国、四谷の棚田、掛川城等遠出する事が出来た。また、近所の神社をお散歩して小学生やおじいさんおばあさんと顔見知りになる事も出来た。

③長期休暇の過ごし方(夏休み・冬休み)

夏休みには、雨天の日以外毎日屋上プールで水遊びをして過ごした。アイスを食べたりスイカわりをしたり、夏を堪能することが出来た。また、長距離ドライブや上映会を行い、一日の中で変化をつけることで、リフレッシュして過ごすことが出来た。

放課後等デイサービスのようす



森山開次さんと



＜文化センター事業＞

■のヴァ公民館事業

①概況

「のヴァ公民館（以下、公民館）」は、障害のある方もない方も誰もが自由に過ごせる「みんなの居場所」として、また、アルス・ノヴァの利用者の中でも精神障害の方々が刺激の強いアルス・ノヴァから離れて落ち着いて過ごせる居場所として 2014 年に開設した。昨年 10 月に 2 周年を迎え、開館 2 周年パーティーでは大人も子どもも障害のある人もない人も、総勢 30 名ほどの参加があった。10 月には休館日を月・火曜日から日曜日のみに変更し、アルス・ノヴァ利用者の日中の利用ができるようになった。運営は就労継続支援 B 型の利用者が担い、定期的な掃除や片づけなどを行っている。そのため、平成 28 年度は会計区分を文化センター事業ではなく、就労関連収入として障害福祉部門に計上した。

②主な活動

昨年度に引き続き、スペースの開放、自主企画の開催、持ち込み企画の受け入れ、講座の開催、部活動の推進等を行った。特に毎月第 2 土曜日のかたりのヴァは曜日を固定したことで、安定した開催となった。28 年度はかたりのヴァに加え、代表久保田翠の「ミドのヴァ」も毎月開催した。開館当初に比べキッチンスペースを拡充したため、自主的にランチを作ってその場にいる希望者に振る舞う「K's キッチン」というささやかなイベントも生まれていた。

（１）開催イベント・講座

各講座・イベントは、レッツ主催のものだけでなく、外部の方が主催したものや、レッツスタッフが個人で主催したものもあった。開設当初から行っている講座はほとんどが現在も毎月開催しており常連の方々が集まっている。また、昨年度はレッツスタッフの山森が主催の「エロス・ノヴァ」が開催され好評だった。

開館当初から続く「かたりのヴァ」は、平成 28 年度はレッツのスタッフがそれぞれテーマを決めて進行役をし、毎回 10～15 名ほどの参加者があり定着している。外部で行う「出張！かたりのヴァ」も隔月で開催。

「エロス・のヴァ」は、公では語りにくい「性」にまつわる様々な事柄（思春期・パンツ・アダルトビデオなど）をテーマに、ざっくばらんに参加者が体験・語り合うイベント。障害のある人も気軽に参加でき、すでにファンがいる。

静岡舞台芸術センター（通称、SPAC）主催の「リーディング・カフェ」を開催。子どもや障害のある人の参加もあり、「いつも開催しているのとは違ったリーディングカフェになった」と主催者から感想をいただいた。

（２）フリーマーケット

昨年春頃から、公民館スタッフの久保田瑛さんがいらなくなった服を持ち込んでフリーマーケットを始めた。それ以降、毎週土曜日に開催をし、それまで公民館に立ち寄ることがなかった地域の方々が足を止める機会が少しずつ生まれるようになった。そして、平成 28 年度末から本格的にフリーマーケットを実施し、平成 29 年度も毎日開催することとなった。

（３）アルス・ノヴァとの連携

アルス・ノヴァを利用する方々が、公民館で行われる講座（例えば、「レッツアート」や「銅版画講座」など）に参加するようになった。モチーフをよく見てのびのびと描いたり、雑談しながら銅版画を制作したり、外部のお客さんとともに過ごしたり、アルス・ノヴァでの支援とはまた異なった経験が生まれている。

（４）常連の〇さん

軽度の知的障がいのある O さんは、アルス・ノヴァの利用者ではない。しかし、公民館にしばしば現れ、昼夜を問わず講座の大半に参加している。マイペースにまた熱心に過ごし、たまに困りごとを作る彼の存在は、空気を柔らかくし時に揺さぶり、講座の幅を少し広げているように感じる。そして同時に、障害のある人も安心していられる場所の可能性についても考えさせられる存在である。

(5) かたりのヴァ・ミドのヴァ

平成 28 年度は、おもにスタッフが持ち回りで進行役をつとめて毎月第2土曜日の夜に開催した。テーブルを囲んで話すかたりのヴァではない試みもあり、そもそも対話とはどういう状況が望ましいのかということについても考えさせられた。参加者は多いときは 15 名ほど、少ない時は5名ほどであった。

第 22 回 4 月 9 日(土) 『『O』とは。』 進行役/遠藤健治

昼の部/14 時 場所:宿盧寺 夜の部/19 時 場所:のヴァ公民館

第 23 回 5 月 14 日(土) 出張かたりのヴァ「怒りについて。」 進行役/大橋正季(グループホームすてっぷ)

場所/浜松協働学舎 根洗寮3階 時間/15 時

第 24 回 6 月 11 日(土) 「言葉とのつきあいかた～話すことが、苦手です～」 進行役/佐々木雄一 場所/のヴァ公民館

第 25 回 7 月 9 日(土) 出張かたりのヴァ「男になるとき、女になるとき」 進行役/夏目はるな 場所/あいホール 時間/14 時

かたりのヴァ「世界と出会いなおす方法」 進行役/高林洋臣 場所/のヴァ公民館 時間/19 時

第26回 9 月 10 日(土) 出張かたりのヴァ「音楽が心に残った瞬間は？」 進行役/夏目はるな 場所/あいホール 時間/10 時

かたりのヴァ「人生この先不安な人同士、お風呂でも行って話をしよう」 進行役/竹内聡 場所/のヴァ公民館 時間/19 時

第 27 回 10 月 8 日(土) 「哲学カフェ風かたりのヴァ」 進行役/久保田瑛 場所/のヴァ公民館 時間/19 時

第 28 回 11 月 12 日(土) 出張かたりのヴァ「遊びとは」 進行役/尾張美途 場所/E-JAN 時間/15 時

かたりのヴァ「わからないけど、価値のあるもの」 進行役/水越雅人 場所/のヴァ公民館 時間/19 時

第 29 回 12 月 10 日(土) 「選ぶということ」 進行役/佐藤啓太 場所/のヴァ公民館 時間/19 時

第 30 回 2 月 11 日(土) 「ゆずれないこだわり。」 進行役/宮澤三千綱 場所/表現未満、実験室 時間/17 時

第 31 回 3 月 11 日(土) 「死にたくなるとき」 進行役/山森達也 場所/のヴァ公民館 時間/19 時

いっぽう、28 年度からは代表の久保田翠が主催するかたりのヴァ「ミドのヴァ」がスタートした。平日の午前中というお母さんたち向けの時間帯であったが、利用者の参加もあった。かたりのヴァとはひとあじ違った、なごやかで自由な雰囲気が特徴だ。設定したテーマから大きく脱線しながらも、お互いの考えに耳を傾け合う貴重な時間となっている。開催したテーマは以下の通りである。

6 月 14 日(火) 「子どもの自立、親の自立」

7 月 12 日(火) 「兄弟との関係」

8 月 9 日(火) 「家族とわたし」

9 月 13 日(火) 「子育てのおわり」

10 月 11 日(火) 「迷惑のかけ方」

11 月 8 日(火) 「向き合うことと避けること」

12 月 13 日(火) 「介護の姿」

1 月 10 日(火) 「家族のかたち」

2 月 14 日(火) 「大切な人」

3 月 14 日(火) 「私のしあわせ」

(6) 広報物の制作

2015 年秋から地域の回覧版での閲覧用として「のヴァ通信」を発行している。28 年度は 6 号から 16 号を発行し、入野

地区から志都呂地区にかけての回覧板への挟み込み（各およそ 1000 部）を行った。「お知らせ入っているね」と言ってくださる住民の方にちらほら出会うようになった。

（7）課題

開館から 3 年目を迎え、常連の講座や来館者が定着している。しかし、新しい顔ぶれが少なく、地域の方々が訪れることもフリーマーケットをのぞきに来ること以外少ない。「みんなの居場所」にはまだまだなっていないのが現状である。しかし、アルス・ノヴァの支援と兼務でスタッフが公民館でそれぞれのイベントを行うことは、これまでの様子を見て継続性に欠ける。ゆえに、地域の方や他の福祉施設を巻き込んだり、のヴァてれびや就労 B と関わったり、普段の活動の延長としてコンテンツを開発・実験し、公民館らしい継続可能な人が立ち寄れる口実となるコンテンツを作っていきたい。

（水越）



近所の方が持ち込んだ鉢植えを販売



SPAC リーディングカフェ



ムラキング氏による詩のワークショップ



レッツアート



フリーマーケット

■インクルージョン事業

①概要

ソーシャルインクルージョンを一層推進していくための事業として、静岡県や浜松市、アサヒ・アート・フェスティバル・福武財団・まちづくり公社から助成・補助を受け、主に以下の事業を行った。

- ・スタ☆タン!!
- ・入野コレクション
- ・タイムトラベル 100 時間ツアー
- ・「表現未満、」実験室(右記事業を含む:ひとインれじでんす／しえんかいぎ／公開トーク)

②スタ☆タン!!

概要:エントリー期間 6月～7月

1次審査:8月22日

決勝ステージ!! :10月9日(日) 場所/鴨江アートセンター

審査員:アサダワタル(日常編集家)、石川浩司(ex. たま)、片岡祐介(音楽家)、輪島裕介(大衆音楽研究)

助成:浜松市(みんなのはままつ創造プロジェクト、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団)

～雑多な音楽の祭典～スタ☆タン!!」は、個々人が生活の中で大切にしている音の表現や、音とも言いきれぬ現象など、一般的なオーディションイベントと違い特定の音楽ジャンルに絞られないイベントとして開催した。ユネスコの音楽における創造都市として28年に認定された浜松市において、こうした雑多な、しかし生活の中では大切にされている音楽への視点を掲げた音楽イベントを提示することに意義があると考えた。こうした音楽を収集する目的で「音楽まわり採集」というプロジェクト名で「みんなのはままつ創造プロジェクト」に採択され、また、世界音楽の祭典の関連イベントとしても認定された。同プロジェクトでアサヒ・アート・フェスティバルにも参加した。

6月にエントリーを開始、全国から50組の応募が有り、ギター等による演奏から身体を使った舞のようなもの、ポエトリーリーディング、自作楽器演奏、自作歌謡など様々な音の表現が集った。8月の一次審査を合格した22組のパフォーマーによる決勝ステージ!! が10月9日に浜松で行われた。(加えて3組の展示出展者、2組のゲストパフォーミング出演者、総勢27組が当日お披露目された。)関係者、出演者、来場者総勢300名程が集う当初想像した以上の盛大なイベントとなった。

多様性を謳うクリエイティブサポートレッツが、より多様性を自覚的に体感する為の仕組みとして設けたのがあえて「オーディション」という仕組み。厳選な審査が伴う為、出演者も審査員も、それを目撃する来場者も普通のライブイベント以上に熱意を持ってパフォーミングの動向、審査内容を見つめる事となった。優勝者は決まったものの順位を決める事以上に互いにリスペクトを深める場となった。詳しい内容は記録集に記載している。

(佐藤)



優勝は無音のどじょうすくいを行った黒柳さん



座談会「選ぶということを皆で考える」



ステージのようす



控室兼オープンマイクステージ



全てのパフォーマンスに4人の審査員がコメント



開始前と休憩中に登場したちんどん屋さん

③入野コレクション

「のヴあてれば」の事業として、浜松市入野地区の面白い人・場所・出来事を紹介する「入野コレクション」を実施した。3 件を取材し、インタビューの様子などを動画共有サイト YouTube で公開した他、インタビューの内容を冊子にまとめた。さらに、そのことを周知するために入野地区内の回覧板でチラシを全戸配布。また、9 月には入野地区社会福祉協議会が開催する福祉まつりに出展し、その場に居合わせた人に出演してもらい番組の公開収録を行った。

- ・助成：一般社団法人浜松まちづくり公社
- ・チラシ発行部数：13,000 部

・冊子印刷部数:600 部

・動画公開先:下の URL からアクセスするか、動画共有サイト「YouTube」で「入野コレクション」で検索。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLa6LtlgHqbHo2zOOMCfKMEL9gyVHeC54I>

<取材先>

・高部宗男さん(入野地区社会福祉協議会 事務局長)

・Esquerita68 オーナー 後藤さん夫妻

・TAKE-SPACE 竹村真人さん



入野協働センターやのヴァ公民館等で配布中



インタビューのようす



入野ふくし祭りでの特設スタジオでは中学生が参加

④タイムトラベル 100 時間ツアー

平成 27 年度に静岡県の人材育成事業において、観光家の陸奥賢氏を招きアルス・ノヴァでの研修プログラムが開発されたが、その結果として生まれたキーワードが「観光」であった。野辺の花を美しいと思うのは、花自身が輝いているわけではなく、その人自身が「光を観る」からである、という陸奥さんのコンセプトから、アルス・ノヴァの日常をそのままに来訪者を受け入れる「観光」へと舵を切った。短時間の滞在よりも長時間の滞在の方が得られるものが大きいとのことから、陸奥氏より「タイムトラベル 100 時間ツアー」と名付けられ、パッケージ化を試みた。8 月の「タイムトラベル 100 時間ツアー」を皮切りに、平成 28 年度は計 7 回のツアーを開催した。また、12 月から 3 月にかけて、プロモーションビデオの制作を行った。このプロモーションビデオは 2018 年のカンヌ映画祭ヘルスケア部門に出品するために 29 年度に手入れしていくこととなっている。

参加者の反応は概ね好評であり、ツアー後に遊びに来る方やアルバイトとして勤めるようになった参加者もいたが、100

時間のポイントカードを溜めるためにリピートした方はほとんどなかった。今後は、観光に訪れた方々のアフターフォローが課題となっている。

ツアー概要

場所：アルス・ノヴァ／のヴぁ公民館 ほか

料金（宿泊料、1日目昼食込み）：1泊2日 8000円（学生5000円）／日帰り3000円（学生2000円）／3泊4日 12000円（学生7000円）懇親会費は別途1000円

開催：年6回 日帰り3名、1泊2日以上は5名以上で開催申込可

おおまかな内容：

1日目 10時ガイダンス、12時昼食、17時振り返り用紙記入、18時ふりかえりのヴぁ、20時懇親会、21時銭湯へ

2日目 10時公民館にてムラキングのワークショップ、13時代表とのトークタイム、15時振り返り

平成28年度実施日程および参加者数

8月6日-7日 サマフェス満喫の旅 参加者5名

9月8日-11日 学生のヴぁ合宿再現の旅 参加者7名（モニター謝礼によりキャッシュバック）

12月17-18日 参加者6名

12月21日-22日 自由の森学園高校自主ツアー 参加者8名

1月14日 福祉関係者向けツアー 参加者8名

2月15日 日帰り自主ツアー 作業所連合会・わ 研修として 参加者5名

3月13日-14日 プロモーションビデオ撮影ツアー 参加者5名



⑤表現未満、実験室

誰かに価値づけられたものではないけれど、その人の生活や生き方を醸し出している行為や熱心に取り組んでいること、それらはアルス・ノヴァで日々目にされているものだが、そうした生活文化への目線をより多くの人たちに広めるために街なかに設けたのが『表現未満、』実験室』である。2020 年オリンピック・パラリンピック文化プログラム静岡県推進委員会モデルプログラムのひとつとして採択された。レッツのある入野町から離れ、アクセスのよい浜松市中心市街地の空きビルを借りて実施した。詳しい内容は報告書に記載している。

〔場所〕 浜松市中心市街地の鍛冶町金原ビルディング 2 階、3 階を借りて実施（2 階：交流スペース／3 階：音楽スタジオ）

〔開催期間〕 2017 年 1 月 16 日（月）～2 月 25 日（土）…計 36 日間

〔来場者数〕 2,160 人（1 日平均 60 人～70 人→利用者・スタッフ 30 人、来館者 30 人）

〔開催数〕 講座 55 回／講演・トーク 9 回／ライブ 4 回／上映会 1 回／しえんかいぎ 5 回／カンファレンス 1 回

〔報道〕 静岡新聞、中日新聞、NHK 静岡放送（番組内特集）

〔雑誌掲載〕 ソトコト（全国誌）

〔ガイドブック発行〕 8,000 部

〔助成〕 2020 年オリンピック・パラリンピック文化プログラム静岡県推進委員会モデルプログラム、公益財団法人福武財団「文化と芸術による地域振興」

（１）「表現未満、」の実験

【アルス・ノヴァ編】

アルス・ノヴァのメンバーたちといっしょにしていると、普段と違う体験や発見がいっぱい。今回、そんな日常を実験室に集めました。実験室から飛び出して歩いたり、街角で演奏したり、実験室での日常から即興的に生まれたこともありました。

〔イベント一覧〕

つるみくんの街中ガイドツアー／紙の山で遊ぼう DX／パーカフェ／りょうくんとさんぽ／コーヒーだいちゃん／ムラキングの恋したいラジオ／砂貝窟／おもしろくんの公開稽古

【市民編】

まちの人々や団体が取り組むいろんな「表現未満、」を集めました。好きなことや興味のあることだけでなく、生活や社会などの身近な問題への取り組みもありました。また、他の障害福祉施設が、普段できないイベントを実験室に持ち込んで開催する、といったことも生まれました。

〔イベント一覧〕 ※主催者表記のないものはレッツが主催。

ムラキングの妄想と空想カフェ 主催＝ムラキング（恋愛妄想詩人）／エロス・ノヴァ 主催＝山森達也

／スナックるな 主催＝山森達也／積読本どくしょ会 主催＝夏目はるな／天才！村木のダジャレ講座 主催＝村木多津男（ユ

ーモア研究家) /アトリエもんもん 主催=笹田夕美子・村松弘美 (ぶっとびアート)

／夕子の漬物講座「つけもんでいちゃもん！」 主催=浜松協働学舎／映画上映&トーク「記憶との対話—マイノリマジョリテ・トラベル、10年目の検証」 ゲスト=梶山智子 (作曲家、マイノリマジョリテ・トラベル主宰)、佐々木誠 (本映画監督)
／お箸とスプーンを作って、なにか食べる 主催=ホームセンターのり子 (みつば木工) /毛糸でわっしょい祭り 主催=尾張美途／淳子さんの銅版画教室 講師=山下淳子 (版画家) /rec (カセット録音文化研究会) 主催=横村雄輝／げーむ部 主催=横村雄輝／アートインコミュニティ3 講師=ホシノマサル (コミュニティ・アーティスト) /冬季クダランピック 2017 主催=ロビンス小依 (ミュミュ・ワークショップ) /NOBUさんと歩こう 主催=浜松協働学舎／本のページをめくるとき 主催=高林幸寛 (フェイヴァリットブックス L 代表) /シルク印刷 箔付けトートバック作り 主催=ZING (ジング) /レッツアート 講師=高木淑子 (洋画家) /ビビビと響け詩の言葉 主催=村木多津男 (ユーモア研究家) /YOKOの語り 主催=浜松協働学舎／かたりのヴぁ／ミドのヴぁ 進行役=久保田翠／浜松のまちづくり勉強会見学会／喫茶「たまごろう」 主催=浜松協働学舎 工房めい／スピンドルで和綿の糸紡ぎワークショップ 主催=NPO 法人トータルケアセンター／「外来種をとって食べる」作戦会議 主催=夏目恵介 (とって食べる by 昆虫食倶楽部) /酒と泪と CD と話と LIVE と男と女 主催・進行役=佐藤啓太／ママ's トーク〜成人のお母さんからお話を聞こう〜 進行役=松本知子 (浜松根洗学園 園長) /きょうだいトーク／ラジオ「ユキヒロック店長とまゆみんその今日もフェイヴァリット!!」 主催・進行役=高林幸寛 (フェイヴァリットブックス L 代表)

(2) スタジオアルス

実験室の3階には「スタジオアルス」を設置。日々、いろんな音楽が生まれ、音楽を通じた関わりがあるアルス・ノヴァの音楽部屋を模したオープンマイク形式の音楽スタジオである。思いのままに音を出す“表現”の場であり、バンドや偶然のセッションなど音や音楽などを通して“関係”が生まれる場であり、そして、音を聴く人もいればゴロゴロする人もいる“生活”の場でもあります。期間中、ライブやワークショップなども行われた。

【イベント一覧】 ※主催者表記のないものはレッツが主催。

不思議の国とアルス Vol.19／爆単 vol.4／音楽百科典 主催=マッスルNTT／「LaLa カレー」創業8周年記念ライブ 主催=LaLa カレー／高橋麗のミュージックセラピー 主催=高橋麗

(3) 公開トーク「〇〇〇センターについて考えてみる！」

レッツが「表現未満、」実験室の今後の展開として考えている「〇〇〇センター」。各分野の第一線で活躍する方々をお招きし、それぞれの活動と「〇〇〇センター」について対話する公開トークを8回開催。

第1回「今の日本の文化政策からみてみた」

ゲスト／大澤寅雄 (株式会社ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室准主任研究員) 1月20日(金)18時

第2回「たけし文化センターで起こったこと」

ゲスト／鈴木一郎太（株式会社大と小とレフ取締役） 1月26日(木) 18:30-20:30

第3回「メディアの開発について聞いてみた」

ゲスト／甲斐賢治（せんだいメディアテーク アーティスティック・ディレクター） 1月27日(金) 18時

第4回「ソーシャルビジネスを学ぼう～社会貢献で飯を食うための事例と発想」

ゲスト／今一生（フリーライター、編集者） 2月3日(金) 18時半

第5回「当事者からつくる今の社会。そもそも当事者って誰だ？」

ゲスト／熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター 准教授、小児科医） 2月10日(金) 18時

第6回「現代日本における地域包括支援の考え方から見てみて！」

ゲスト／堀田聡子（国際医療福祉大学大学院教授） 2月13日(月) 14時

第7回「ムーブメントをつくるには？」

ゲスト／山出淳也（BEPPU PROJECT 代表） 2月17日(金) 18時

第8回「制度と暮らしの狭間～高齢者福祉と障害者福祉～」

ゲスト／川向雅弘（聖隷クリストファー大学 准教授） 2月20(月) 18時

（4）しえんかいぎ

障害福祉の現場では、当事者への支援内容を検討する「支援会議」というものがある。これをレッツ流哲学カフェ「かたりのヴぁ」の形式で参加者も交えて公開で行ったのが「しえんかいぎ」。問題解決ではなく、対話を中心に普段の言葉や関係性、視点などを掘り下げた。

進行役／西川勝さん（臨床哲学）

第1回／尾形和記さん、第2回／久保田壮さん、第3回／高橋舞さん、第4回／小松和也さん、第5回／太田療さん・関亜美さん

（5）カンファレンス「検証！『支援』と『表現未満、』そこからみえること」

実験室最終日に、カンファレンスを実施。行われた全5回の「しえんかいぎ」の内容発表を行った後に、社会学者の天田氏と美術批評家の榎木氏をゲストにお招きし、「しえんかいぎ」や実験室をアートや社会学の視点から考察。そして、「支援」の中にある革新性や、人への丁寧な眼差しなどを通して、それらがどのように「表現未満、」に連なっていくのかを議論した。

ゲスト：天田城介（社会学者）／榎木野衣（美術評論家）／久保田翠

司会：アサダワタル（アーティスト・社会活動家）

日常の様子（実験室の中）

「表現未満」プロジェクト 事業報告
認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ



会議の様子



とって食べるかいぎ



観光ツアー



観光ツアーの参加者と子供たち



実験室で遊ぶ①



実験室で遊ぶ②



実験室で遊ぶ③



エロスのヴァ



レッツアート



ママ'sトーク

<2016 年度メディア掲載・講演オファー等>

- 6 月 30 日 Smile on Radio(スタ☆タン!!)
- 7 月 9 日 NPO 法人ポパイ トークセッション(久保田)
- 9 月 『ソーシャルアート-障害のある人とアートで社会を変える』発売・寄稿(久保田)
- 9 月 23 日 生き活きネットワーク研修会講演(久保田)
- 9 月 29 日 クローズアップ現代+ 生きづらさを抱えるあなたに～障害者殺傷事件が投げかけたもの～ (アルス・ノヴァのようすや久保田のコメント)
- 10 月 18 日 全国障害者芸術・文化祭あいち大会プレイベント「居場所づくりのアート」(久保田)
- 10 月 雑誌「手をつなぐ」寄稿(久保田)
- 11 月 登呂エンナーレにて、高橋舞さんの作品が展示
- 11 月 雑誌「POPEYE」特集・僕の好きなアート(オルタナティブスペースとして掲載)
- 11 月 芸術批評誌「REAR」38 号「障害と創造—当事者として向きあうために—」掲載
- 11 月 乃木坂スクール 講義(久保田)
- 12 月 映画「バケツと僕」のロケ地として採用(2017 年秋公開予定)
- 12 月 静岡大学 NPO ボランティア論講義(久保田)、聖隷クリストファー大学 学内総合演習 (久保田)
- 1 月 静岡文化芸術大学 静岡学 講義(久保田)
- 3 月 雑誌「ソトコト」4 月号(表現未満、実験室)
- 3 月 はじまりの美術館 展覧会「ロックとアートの蜜月な日々」に「おが台車」出展と、ワークショップ
- 3 月 美術科教育学会 インクルーシブ美術教育研究部会 コメンテーター(久保田)
- 3 月 『アート NPO データバンク 2016-17』インタビュー記事掲載(久保田)
- 3 月 Hamamatsu Third Party 万年橋パークビル トーク(久保田)

他

(19) 地域 西 平成29年(2017年)1月17日(火曜日)

浜松 区

中区期間限定でオープン空間

浜松市西区入居者で「アルス・ノヴァ」

障害福祉サービス事業を運営する認定NPO

重度知的障害者と「表現。活動が楽しめる期間限定の「表現未満。」実験室」＝浜松市中区緑治町

「表現未満。」実験室は、浜松市中区緑治町の真ん中にある開放的な空間で、重度知的障害者と「表現。活動が楽しめる期間限定の「表現未満。」実験室」を開催している。実験室は、浜松市中区緑治町の真ん中にある開放的な空間で、重度知的障害者と「表現。活動が楽しめる期間限定の「表現未満。」実験室」を開催している。

「表現未満。」実験室は、浜松市中区緑治町の真ん中にある開放的な空間で、重度知的障害者と「表現。活動が楽しめる期間限定の「表現未満。」実験室」を開催している。

「表現未満。」実験室は、浜松市中区緑治町の真ん中にある開放的な空間で、重度知的障害者と「表現。活動が楽しめる期間限定の「表現未満。」実験室」を開催している。

中日新聞 2017年1月17日

障害の壁越え交流の輪

中区でイベント空間開設

障害者福祉の壁を越え、交流の輪を広げる。中区でイベント空間開設。

「表現未満。」実験室は、浜松市中区緑治町の真ん中にある開放的な空間で、重度知的障害者と「表現。活動が楽しめる期間限定の「表現未満。」実験室」を開催している。

「表現未満。」実験室は、浜松市中区緑治町の真ん中にある開放的な空間で、重度知的障害者と「表現。活動が楽しめる期間限定の「表現未満。」実験室」を開催している。

ソトコト4

特集 多様性を育てる社会

NEW STANDARD CHOCOLATE

ソトコト4

多様性を育てる社会

ソトコト4

多様性を育てる社会

REAR

障害と創造

disability in

38

静岡新聞 びぶる 2017年(平成29年)1月26日(木曜日) 10

福祉と文化を楽しもう

「表現未満。」実験室オープン

「表現未満。」実験室は、浜松市中区緑治町の真ん中にある開放的な空間で、重度知的障害者と「表現。活動が楽しめる期間限定の「表現未満。」実験室」を開催している。

「表現未満。」実験室は、浜松市中区緑治町の真ん中にある開放的な空間で、重度知的障害者と「表現。活動が楽しめる期間限定の「表現未満。」実験室」を開催している。